

肺がん検診は CT でイける !?

/** 講師の牛尾哲敏先生よりメッセージ **/



胸部の精査(異常陰影検出)には胸部レントゲン撮影が多く用いられている。レントゲンは簡便であり、被ばく線量も少なく、保険点数も安価であることが普及の要因といえる。便利な検査法ではあるが、その描出能には限界があることも周知の事実である。一方でCT検査は、被ばく線量が多く保険点数も安いとは言えず、日本においては多用されるCT検査の在り方が問われているのも事実であるが、その描出能はレントゲンに比べ遥かに高く、多くの施設で肺がん検診にCT検査が用いられている事も事実である。肺がん死亡率を低減させるために肺がん検診にCTを導入する場合、対象者が健常者であることから、被ばく線量の問題は避けて通ることができなく、低線量CTの導入が必須と言える。講演では、胸部レントゲンの限界、質の高いCT検査、低線量肺がんCTの理解と工夫、今後の低線量肺がんCT検診の展望、についてお話しします。

“創意工夫しよーる?”

/** 講師の大浦大輔先生よりメッセージ **/

岡山放射線技師会の皆様、こんにちは。小樽市立病院の大浦大輔と申します。この度は、講演の機会をいただきましてありがとうございます。

今回は、「ECR Magna cum laude への軌跡 - 7min AIS protocol -」と題しまして、先の ECR2023 での受賞演題を深掘りする内容でお話しさせていただきます。内容は虚血性脳卒中に対する、短時間 MRI プロトコルです。一番の重要なメッセージは、“日頃の創意工夫で、地方の小さな病院でも国際学会での受賞ができる”ということです。

本講演では、各 Sequence の役割や、工夫点、これまでの成績やどのような経緯でプロトコルができあがっていったのかを、ざっくばらんにお話しさせていただきます。日頃の業務や今後、国際学会へ挑戦を考えている方への一助になれば幸いです。どうぞよろしくお願いたします。



“放射線防護の考え方はどのように変わってきたのか？変遷と展望を問う”

/** 講師の竹井泰孝先生よりメッセージ **/



皆さま、こんにちは。この度、桃子会で講演させていただく川崎医療福祉大の竹井と申します。2019年に米国医学物理学会(AAPM)から生殖腺/胎児シールドの使用中止の声明が発出され、世界中から大きな反響を受けました。その後、2020年に英国放射線学会(BIR)、2021年に米国放射線防護審議会(NCRP)から生殖腺/胎児シールドの使用撤廃の勧告が発出され、生殖腺防護シールドの使用撤廃に向けた動きが活発になってきています。わが国でも日本放射線技術学会(JSRT)放射線防護部会が生殖腺防護に関する実態調査を行われ、諸外国と同様、過去からの慣習として生殖腺防護が行われていることを明らかにしています。今回の講演では生殖腺防護に関する歴史的経緯や見直しの議論のきっかけとなった科学的根拠、生殖腺防護を注意する際に必要な対応策について、皆様と意見を交わしたいと思います。

どうぞよろしくお願いたします。

どうぞよろしくお願いたします。